

第6次知多市総合計画審議会〔第7回〕

【日 時】 令和元年8月23日（金） 午後3時～5時

【場 所】 知多市役所3階協議会室

【出席者】

会 長 吉村輝彦 日本福祉大学 国際福祉開発学部 学部長・教授
副会長 入江容子 愛知大学 法学部 教授
生田祐江 市民ワークショップ「未来にツナグ会議」参加者
市野 恵 特定非営利活動法人 地域福祉サポートちた 代表理事
片山麻有 愛知県男女共同参画人材育成セミナー修了者
河村康英 社会福祉法人 知多市社会福祉協議会 地域福祉課長
近藤通哉 株式会社 日本政策金融公庫 国民生活事業部 信越地区統轄
榊原秀敏 あいち知多農業協同組合 営農部 知多営農センター長
高山博好 環境省 環境カウンセラー
竹内栄道 知多市商工会 監事
竹内徳得 知多市観光協会 副会長
富田敬子 市民ワークショップ「未来にツナグ会議」参加者
西尾和男 知多市コミュニティ連絡協議会 会長
松本幸正 名城大学 理工学部 教授
水内智英 名古屋芸術大学 芸術学部 准教授 国際交流センター長
峯神亜由美 知多メディアネットワーク株式会社
営業部 集合・法人グループ グループリーダー
吉川佳代 知多市社会教育委員
(事務局)

【欠席者】

久野美奈子 特定非営利活動法人 起業支援ネット 代表理事
長倉剛士 日本労働組合総連合会 愛知県連合会 知多地域協議会 代表
野尻紀恵 日本福祉大学 社会福祉学部 教授

【傍聴者】 11名

【議事次第】

- 1 会長あいさつ
- 2 議題
第6次知多市総合計画（案）について
- 3 その他

【会議の概要】

1 会長あいさつ

[事務局]

事務局の企画情報課長、細川です。

毎回、お願いしていることですが、記録のための写真撮影を行いますので、よろしくお願いいたします。

なお、本日の会議におきましては、特定非営利活動法人起業支援ネット代表理事久野美奈子委員、日本労働組合総連合会愛知県連合会知多地域協議会代表長倉剛士委員、日本福祉大学社会福祉学部教授 野尻紀恵委員より、欠席のご連絡をいただいております。片山委員からも、30分ほど遅れるとのご連絡をいただいております。他にも、到着されていない委員がいらっしゃいますが、時間となりましたので、始めさせていただきます。

現在の出席者は15名で、定足数に達していることをご報告いたします。

それでは、会長、よろしくお願いいたします。

[吉村会長]

それでは、ただいまから、第7回知多市総合計画審議会を開催したいと思います。

委員の皆さまには、ご出席いただきありがとうございます。

今回の審議会でも、これまでの審議会と同様、2つのテーブルに分かれてお座りいただいております。後半は私と入江副会長とで、テーブルごとのファシリテートをさせていただきます。

それでは、本日の議題に入ります。最終局面ということで、「第6次知多市総合計画（案）」について、事務局から説明を頂き、最初はテーブルごとではなく全体として、議論をすすめます。

2 議題 第6次知多市総合計画（案）について

[事務局]

【配布資料の確認】

【「第6次知多市総合計画（案）」説明】 【資料1】

【「市民アンケート調査結果」説明】 【参考資料1】

【「未来にツナグ会議2019開催結果」説明】 【参考資料2】

[吉村会長]

ありがとうございました。

それでは、ここからはまず、テーブルごとではなく全体で進めたいと思います。計画全体の取りまとめの段階に入っており、これまでの各委員からの将来像、重点戦略、分野別計画、それぞれの様々な議論などを基に、本日の資料が作成されております。今一度、委員のみなさんの一人ひとりそれぞれの立場や経験から、また関わっておられる分野での専門的な知識を通してのご意見を頂きたいと思います。その後、テーブルごとに議論して頂き、全体共有へと進めていきたいと思っております。

時間の関係もございますので、お一人3分程度で順番にご発言をお願いします。入江副会長側の市野委員から逆時計回りに、その後、こちらのテーブルの竹内栄道委員から同じように逆時計回りでご発言頂き、私と副会長は最後に発言させて頂きたいと思います。それでは、市野委員、よろしくお願いします。

[市野委員]

SDGsの考え方は、地域福祉計画に反映されるものであるため、これが目指す社会の方向性であることに異論はありません。

しかし、76 ページ「(1) 協働・連携の方針」のところで、「エリアマネジメントを官民連携により」の書きぶりが気になりました。計画の中身を拝見すると、行政は事業者からのアイデアを積極的に取り入れる、まちづくりのコーディネーターとなる、持続可能な組織づくりを応援する、というように、これからの地域の組織体制をイメージしにくい、ざっくりとした言い回しとなっています。何をどうしていくのかという点で、「持続可能な」という言葉はとても良いと思いますが、例えば組織を法人化させていくのかなど、もう少し噛み砕いて表現されると分かりやすいのではないかと思います。

[河村委員]

計画全般について、「地域共生社会」という表現を加えていただきたいと思います。これからのまちづくりを考えるときに、市全体で、中学校区、小学校区、あるいは行政区単位で取り組むべき色々な施策がありますが、各市民が自分ごとに捉えて主体的に行動することも重要な視点であると思います。SDGsも大事だと思いますが、SDGsの議論がこれまで十分になされていなかったもので、唐突感がありました。地域共生社会をどうやって知多市の身の丈にあったコンパクトシティづくりの中で進めていくか、市民の役割、行政の役割を示すために、「地域共生社会」という言葉があったほうが良いと思いました。

[竹内（徳）委員]

素晴らしくまとめられていると思います。

観光については、取り組むべきミッションが多くあるので、今これを優先して取り組むべきであるというものがあるわけではありません。これから磨き上げていく分野だと思っています。

SDGsについては、突然計画書の中に現れたので、よく理解できていません。今後の大きな方向性の中で総合計画と関連付けることは良いと思いますが、しっかりと説明を加えないと理解できないのではないかと思います。

[松本委員]

計画全体の構成が分かりにくいと思います。基本構想、基本計画、戦略、政策、基本目標などがありますが、まず、「政策」という言葉が総合計画に出てくるのが良いのかという疑問があります。また、基本構想には「理想の未来」と「将来像」が出てくるので、どちらが基本構想の絵なのかが分かりません。一方、「理想の未来」は基本計画にも出てきます。さらに、基本構想の詳細がそれぞれ基本計画の中に出てきています。そういった構成なので、冗長で分かりにくくなっています。重点戦略についても、どれが戦略かよく分かりません。33 ページの図を見ると、「関連イメージ」とあり、どれが戦略なのかが不明瞭です。また、続いて「基本目標」も出てきているので、分かりにくくなっています。

交通の面では、自家用車の乗合などの記述がありますが、基本的には鉄道とバスのネットワークをしっかり作って行って、これを補うように自家用車を用いるという考え方ではないでしょうか。また、自転車の活用についても、国をあげて進めていますので、これについても明記することが大事ではないかと思えます。

[峯神委員]

SDGsについては、聞いたことがある程度でしたので、調べてみました。SDGsに向けて進めていくという考え方は良いと思いますが、SDGsモデル選定都市として、例えば、熊本市の地震に対する教訓を生かした地域力の向上事業のように、知多市として、SDGsの具体的な取組を示して進めていくのかどうか分からないと思いました。

[高山委員]

SDGsについては、企業ではISOと同様に取り組むことが当たり前になってきているので、行政の取組としても、盛り込んでいくことは良いのではないかと思います。

計画の案としてしっかりとした形のもので出てきたので、もう少し前から自分の考えを述べておくべきだったと思いますが、私の思いは、知多市だけでなく知多半島全体を良くしていきたいということです。その突破口が知多市であれば良いと思っていました。

注目しているのは動物のヤギで、地域を変える力がある動物だと思っています。知多市は緑の多い地域と言われますが、耕作放棄地が多く、観光資源として成り立たない緑地が多いです。こうしたところを草原に変え、そこにヤギがいる、ということになれば、観光資源にもなりえますし、荒廃したイメージをなくすこともできるのではないかと思います。四国から招いた知人に、「知多市は耕作放棄地が多いね。耕作放棄地が多いということは人の心が荒れているのではないだろうか」と言われ、ドキッとしました。美しい緑地を増やしたいというところから、ヤギによる取組を導入したいと思いました。もともと、知多半島は酪農が盛んであり、牧草地も残っています。ヤギは子どもの教育にも良いと思います。学校のうさぎ小屋はなくされる傾向にあり、ビオトープも担当している教員が異動すると成り立たなくなることもあります。私はヤギの世話をすることが出来ますし、市で管理できれば更に良いと思います。搾乳体験、チーズやソフトクリーム、キャラメル作りなどができれば良いと思います。また、70代以降の方にヤギを見せると、懐かしいと言うそうです。このような記憶への刺激は認知症のリハビリにも効果もあると思います。ヤギの導入を政策の中に盛り込むことは難しいと思いますが、今更ながらでも述べておきたいと思いました。

[榊原委員]

SDGsについてですが、間違いのない方向性だと思いますし、施策と関連付けていくことに関してもみなさんにも異論はないと思います。しかし、SDGsが中心となり、それに市の計画が付いていくという形はあまり良くなく、市の計画が先にあって、それに関連付けているSDGsでも同じ方向を向いているという確認ができれば良いのではないかと思います。

以前の分野別計画の書きぶりだと、スポーツをやれば健康になるという考え方が出すぎていたので、健康とスポーツを分けていたのは良いと思います。これに加えて、食育にも注目してほしいと思います。フ

ファストフードが原因かどうかはわからないが、怒りっぽい子どもやあおり運転をする人物等が出てきている原因は、食べるものなり愛情がたりなかったのではないかと思います。緑園都市がうたわれているので、健康な家庭と健康な緑といったところをもう少し力強く表現できれば良いなと思いました。

[生田委員]

一市民としての意見を言うと、SDGsは初めて聞きました。SDGsと各政策が対応する表現がなされていたので、わかりやすいと思いました。76 ページ「5 総合計画の実現に向けて」ですが、ここに書かれているように、個人事業主等は素晴らしい知識を持っている人が多いので、そういった方々との連携の実現に向けて取り組んで欲しいと思います。

[竹内（栄）委員]

デザインとして、資料1のようなものが出来て配布されるというイメージですか。

[事務局]

デザイン等はこれから詰めていきます。

[竹内（栄）委員]

SDGsについては、唐突に出てきたので、みなさんと同じくどのように理解するか悩んでいます。SDGsの理念についての注釈がないと、読み手にとってわからないと思います。例えば、どのような経緯を経て国連で採択されたか等です。

4 ページ「3 計画の構成と期間」に記載されている実施計画が実は重要になるのではないかと思います。また、20 ある分野別計画は独立してあるのではなく、それぞれが複雑に絡み合っていて、実施されていくと思いますので、その辺りもイメージ出来ると良いなと思いました。

分野別計画 72 ページの「(11) 市街地整備」でも、人口減少と絡み合った形で少し文言が加わると、良いなと思います。「(12) 商工業」についても、創業支援に取り組むというところで、どういったところと連携するのかを入れて欲しいと思います。

76 ページ「5 総合計画の実現に向けて」の「(1) 協働・連携の方針」①地域活動、市民活動の推進に関連して、知多市が弱いのは商業であると思います。日常の買い物に関係する商工業者がどんどん廃業しています。そういったことを食い止めるために、市内での買い物ができるようにすることも大事だと思います。また、2、3年前の商品券もカンフル剤であったと思います。連携のどこかに商工業団体との連携というようなものをいれてほしいと思います。

26 ページから 31 ページまでの「1 理想の未来のイメージ」の「(1) ひとの未来」①～③のタイトルがもう少し簡潔でわかりやすい表現を心がけると良いと思いました。

[西尾委員]

SDGsという単語はコミュニティの会議でも出てきたことがないので、これから勉強していきたいと思いました。

地域活動は、担い手が不足しています。魅力ややりがいがかたがた薄れてきているようです。その辺り

を今一度掘り起こしていけたらと思います。コミュニティ活動についても色々書かれているので、これが実現できるように実施計画等の中に取り入れていただければと思います。

[吉川委員]

生涯学習について随分書かれているので、嬉しいです。高齢化の影響で、学びの場も大変な時期を迎えており、今の学びの場の形だと対応できなくなっていると思います。それについて助けて頂けるような文章が入っていると良いなと思いました。学ぶことが生きがいを与えているようで、いきいきと学んでいる方々が街に活気を与えていると思います。この活気をうまく生かすことができるように学びの場所を増やしていくなどの取組が重要だと思います。

[水内委員]

SDGsについて、それぞれの項目が各方針と結びついているのがよいと思いました。ただ、17番の目標「パートナーシップで目標を達成しよう」は、16番までの目標とは異なっています。17番が全ての方針に関連していると思いますが、17番が関連していると明記されている方針とそうでない方針があり、その違いは何か整理する必要があるように思います。SDGsのことをしっかりと理解したうえで配置していくことが重要だと思います。

17の目標の下に169のターゲットがあるので、これと施策の関連性が分かると良いと思いました。

デザインということであると、75ページ「(19) 広報」というところで、今後の自治体は公開している全ての情報をすべての人にきちんと伝える必要があります。ただ公開してあればいいということではなく、伝えるところまでが行政の責任であるという考えが広まっています。その観点から考えると、わかりやすく伝えるだけに留まらず、あらゆる人にすべての情報を伝えるというようなもう少し踏み込んだ表現をしても良いと思います。また、「人とまちの魅力に出会う場をデザインし」の「デザイン」という言葉は、どのような意味で使っているのか気になりました。

KPIが矢印になっていたのは新しいと思いました。数字で定めてしまうのはいかなものかと思っていたのですが、指標の意味合いをどのように理解すべきかと思いました。

最後に、市民が出来ることの内容に濃淡があると思います。例えば、49ページの「2-2 共に支え合う地域づくり」で近所付き合いや認知症への理解も大事ですが、それ以外にも介護の話や共生、教育に関する話などもう少し幅広い内容になってくるのではないかと思います。もちろん全てを書くことは難しいことではありますが、ここの整理をどのようにしていくのかも大事になってくると思いました。

[富田委員]

昨年に引き続き、「未来にツナグ会議」のワークショップに参加しました。その中で、市民・地域等のできることを話したが、その内容がそのまま書かれていたので、嬉しかったです。市民が読んで身近に感じると思いました。ただ、ワークショップでは、「人とのつながり」が多く出てきたので、これを反映しても良いと思います。これは、子育てしやすい環境にも関連していると思います。また、SDGsについては、16番の「平和と公正をすべての人に」という目標が大事になってくると思っており、これがなければ、「あんしんづくり」も「ひとづくり」もうまくいかないと思うので、全く出てこないのは何故だろうと疑問に思いました。

[近藤委員]

資料1のような冊子になると分厚く感じます。一般の人が読むと大変ではないでしょうか。市民にわかりやすく伝えるためには、ポンチ絵等が重要となりますが、33ページの図がわかりにくいものになっています。例えば、「新たなチャレンジの場づくり」というのは新たなにぎわいの拠点になる可能性もあるのに、これが「にぎわいの拠点づくり」と線につながっていません。また、「ダイバーシティ」と「子育て」も線につながっていないが、小さい時から多様性を認め合う教育をしていけば、いじめ問題がなくなる可能性もあってこれらはつながっていてもよいはずなのに、線で繋がれていません。無理やり関係の深そうな項目だけを線で結ぶのではなく、緩やかにつながっているような見せ方でよいではないでしょうか。

現在の図は複雑すぎて市民にとってわかりにくいです。中心は市民になってくると思うので、「ひとづくり」が真ん中であって、その周りに「まちづくり」、「にぎわいづくり」があってもいいのかなと思いました。

KPIについて、進捗管理をする上で、実績や数値で達成度を見ていくのは重要だと思いますが、そこだけにこだわる必要はないと思います。例えば、67ページの創業件数が19件を上回ることを目指すことになっていますが、これについて、仮に19件以上の創業があってもそのことをもってのみ計画どおりに進捗したと、単純に評価しない方がよいと思います。事業は継続しないと意味がないので、創業したけれども実際は1年後に半数が廃業というのでは本来の起業家を増やしたいという趣旨には必ずしもそぐわないと思います。KPIなどの数値目標を達成することが目的化しないように、プロセス、内容をチェックしていくことも必要ではないかと思います。

また、中小企業の事業承継問題ですが、現在の経営者の平均年齢は60代で、平均引退年齢は70代です。つまり、この10年が正念場なのですが、計画の中に事業承継に係る施策がないので、創業と組み合わせせて取り組んで欲しいと思います。

[片山委員]

水内委員と同様に、KPIの表し方は良いと思っていましたが、冊子が分厚いなと思いました。例えば、私の中学2年生の息子は読まないと思います。市の計画なので、大人が読むものではありますが、簡単な冊子が必要だと思います。多くの人が読みたいと思えるようなデザインが必要ではないでしょうか。

[入江副会長]

審議会ですべて議論してきた雰囲気と違う計画(案)となってしまうと思います。割と従来型であるという印象です。計画の冒頭で三層構造を示しているせいでしょうか。せっかくこれまで色々議論してきたので、もっと活かされるべきだと思います。2ページの「計画策定の趣旨」にて、審議会のことも書き込んでよいのではないのでしょうか。2～3ページくらい審議会の議論の過程について、吹き出しでコメントを書いたり、どのような意気込みでこの審議会に望んだかなど色々な形で表現して欲しいです。そういった扱いはあると、市民主体で作ったということがわかるのではないのでしょうか。もっとわかりやすくという意味でいうと、副読本があってよいと思います。他市では、絵本風や漫画風などになっています。

3ページに「(1)まちづくりに関わるすべての人が共有する公共計画」とありますが、市民に公共計

画であることが伝わるのでしょうか。公共計画とは何かというところから、市民が理解しやすい内容で書く必要があると思います。

22 ページの将来像に、チャレンジという言葉が多く出てきています。否定はしませんが、少しチャレンジという言葉が多すぎると思いました。SDGsでは包摂性という概念が重要であります。これとチャレンジというところがあまり馴染んでいません。

32 ページの人口の将来展望ですが、唐突な印象を受けます。また、社会減・自然減は前提であれば、もっとはっきり書いた方が良いと思います。それを見込んだまちづくりをするならば、自然に人間中心となります。どれだけ賢くコンパクトに縮んで行くか、その中でどれだけ生活の質を高めるかということが重要になってくると思います。しかし、現在の本文の書きぶりだと、7万人の確保を目指して取組むというような印象を受けてしまっています。そうではなく、これからのまちづくりはどういう思いでそのような未来に向けて行っていくのか、ある程度コンパクトを目指しつつも、質を高めていく、人とのつながりを強めていくというこれまで50年とは異なる方向性が分かるような書きぶりだとよいと思います。

33 ページからの重点戦略ですが、これは一般の方にとってわかりにくいのだと思います。従来とは異なり、パッケージ化されていることはよいので、これをもっと強調して良いと思います。各課の枠組みを超え、市民の生活の質を高めるという目的を達成するための取組であることが伝わるような書きぶりだとよいと思います。

また、「市民・地域等ができること」について、具体的に書かれていることはよいことありますが、市民からすると、押し付けられていると思われる可能性があります。もう少し説明が欲しいところです。書かれている内容について濃淡があると思うので、例示としてもよいのではないのでしょうか。

[吉村会長]

各委員の意見と事務局案について、大きな方向性は同じだと思います。ただ、これを形にするときに、前例にとらわれたいとしつつも、とらわれてしまうということなのだと思います。

地域共生社会について、多様な人がいるというときに、外国人の生活について触れないのはおかしいので、載せておいて欲しいと思います。SDGsの包摂性というコメントもありましたが、「包摂」という言葉について本文に余り出てきていません。「共生」も同様です。一方、「共助」といった単語については人によって定義が異なるので、知多の場合はどのような定義で使っていくのか精査するべきであると思いました。

再度、「緑園都市」という単語が入り続けていることについて、どうあるべきかを考えたいです。50年使ってきた緑園都市を引き継ぐのであれば、単なる継続でなくこれまで何ができていてその上でこれからは何ができるのか、というような記述がほしいと思います。

教育については、学校教育以外にも様々な形があるので、その辺りの書き方について精査が必要です。

重点戦略に関しては、各戦略が2ページで整理されていますが、この書き方について説明がないと市民にとってわかりにくいと思います。さらに、全体の構成がどうなっているのかという意味だと、読み手を想像した書きぶりは必要だと思います。

最後にSDGsですが、国が強調しているから書いているのだと思いますが、重点的なところにちゃんとつながっているのでしょうか。単にアイコンがあればよいというものではないと思います。

また、SDGsへの学びについて明記する必要もあるかもしれません。

それでは、ここからは各委員のご発言も踏まえ、テーブルごとにご議論いただき、各テーブルでのご意見は、後ほど共有させていただきます。まずは、今回資料に追加されたSDGs推進の考え方や総合計画実現に向けた協働・連携の方針などについてご意見を頂き、その後全体を通してのご意見をお願いします。

【吉村会長のグループ発言骨子】

[水内委員]

別冊を作るという話が出たが、この役割は結構大事だと思う。これからの計画は市民の方に知ってもらうことで意味が出てくると思うので、しっかり伝わるものを作らないといけない。先ほど話に出たように中学2年生でも、外国人でもわかるのも大事。外国人向けにやさしい日本語を使うなど、編集を考えて欲しい。

[吉川委員]

冊子はどこに置くのか、活用方法はどうするのか。また、別冊と言っていたが、例えば転居してきた方に配布するのか。また、学校教育に使うものなのか。

[吉村会長]

尼崎市は副読本を作り、45人の市民の思いなどを漫画化している。総合計画の本編を精読される方はそんなにいないし、読まれないことの方が多い。柔らかくて、ちょっとしたきっかけになるようなものを作ることが水内委員の発言だと思う。

[吉川委員]

作ったものがまちの方針であり、子どもたちにもみんなで考えようということ、作った人の気持ちがよく伝わるようなものが必要。漫画もひとつの方法。

[吉村会長]

行政が作ったというより、わたしたちが色々な形で関わって作ったものを、わたしたちを通して、ということにしたい。概要版は今までもあったが、そういうものではなくわたしたちの思いを伝えられるようなもの、だれに届けたいのかという観点から考えることが必要だと思う。

[吉川委員]

だれが作ったのかがわかることはとても大事。市民の意識を高めることにつながると思う。

[吉村会長]

そのためにどういう見せ方にするか、計画にみなさんの個々の思いがあるのも大事だと思う。今までとは違った、関わりが見えるものが良い。

[竹内（栄）委員]

「君たちはどう生きるか」という本の漫画版を買ったが、漫画だと内容がとても頭に入ってきた。そういう目で見られて感じるようなもの、これからの市の動きが伝わるようなものにしていかなくてはいけないと思う。例えばPRビデオを作り、それを学校で流すなどビジュアル的なものにお金を使ってはどうか。

[吉村会長]

ビジュアルだけではなく、メッセージが入っていることが大事だと思う。

[竹内（栄）委員]

メッセージはこの中にたくさん入っていると思う。また、バックキャストイングが肝になっているのであれば、もっと説明がないと弱いのではないか。

[吉村会長]

ここでやってきたことの伝え方や書き方、見せ方がもう少しあるのでは、と思う。

[水内委員]

見栄えは整えていけばいいと思います。入江副会長が発言したように全体構成が従来型に伝わってしまうのは、どうだろうとは思っている。今さらかもしれないが、目新しさを編集の段階で伝えるチャレンジはあるのかなと思った。

[西尾委員]

これからのSNSの活用について、方向性はしっかりととらえたうえで、YouTuberなどに彼らの発想で入り口の発信をやらせてはどうか。

[吉村会長]

内容についてはどうか。

[片山委員]

全部つなげていきたいのが伝わってくるが、本当にやれるのかと思う。

[吉川委員]

結局、コーディネーターがいないとやっていけないのが現実。

[片山委員]

つながりやつながることは大事で必要だが、コーディネートする人がたくさんいるのか、できるのか、と思う。最後に官民連携とあるが、今に始まったことではないはず。ここに書くならやる、やらないなら書かなくてもいいのではと思ってしまった。

[水内委員]

かなり同感できる。これまでの行政の仕事の仕方を変えていかないといけないが、そこがうたわれていない。実際に今すぐ行政の中でできるのか、どうやるのか、例えばタスクフォース型で立ち上げるのか。部署にもよるが、いろいろなセクションが一緒になって進むのか、その仕組みづくりについてしっかりと検討することが必要で、そこから実際にできるのかという話になるのではないかな。

[吉川委員]

やはり、試行錯誤の積み重ねである。例えば、学校教育に地域住民が協力しようとしても先生にとっては、逆に迷惑だったりする。住民と学校をうまくつなぐ人がいれば糸口になり、子どもたちが社会の強さを知っていくことになる。地域を知っている人を探してコーディネートしてもらうのが良い。難しいからできないと言っているのは、いつまでたってもできない。

[片山委員]

学校のことを言うと子どもたちは瞬間を生きており、できていないことで経験を積めないのはよくない。やると決めたなら真剣に向き合い、コーディネーターを立てるなり突き詰めていかないといけない。子どもたちは1年後を待つはおらず、10年計画であるならば、時の流れを考えてシビアにいくべき。

[吉村会長]

76 ページと 77 ページで積極的に位置づけておかないといけないかもしれない。

[吉川委員]

分野別計画に関連する計画とあるが、これは行政の主観で入っているのか。

[吉村会長]

水内委員が発言したように、今回議論してきたのは担当課だけで取組む、ここだけで取組もうというのを出さないといけないことを別で書いておかないと、分野別計画があるからその担当だよ、で終わってしまう懸念があるので、本気で実現するために推進する仕組みであり、担当課まかせでいいまいにしないということだと思う。ここはあわせて考えていかないといけないと思う。

また、前に書いてあったのは「超えていきましょう」だったが、実際に「超えられません」にならないような担保はしないといけない。

近藤委員はどうか。

[近藤委員]

いつかの回でも伝えたが「食」に関する記載、食のPRがまったくない。観光も含めた魅力的な食文化、B級グルメを盛り込むのはどうか。今、話題のB級グルメは自ら開発して観光に来てもらい、独自の食文化が地域おこしになっている。ここにはその記載がなく、「ペコロスをブランド化する」という表現しかない。

また、食に関連して農業にも力を入れるべき。先ほども耕作放棄地の話があったが、都会地に近いのはメリットであり、知多市には利便性があると思うので、都会の人に来てもらって農業体験や食と関連させることなどを、10年で作り上げていく。せっかくこの10年がチャレンジだと言っているので、今までできてないところに光を当てて「やるんだ」というメッセージ性があっても良いと感じる。バックキャストिंगといいながら、現状認識型になっているイメージもする。

[富田委員]

友人で農地を借りている人、無農薬に取り組んでいる人がいる。知多市の若い市民にも関心があると思う。自分で無農薬を作れるのは魅力的。

[吉川委員]

日曜朝市では、自分たちで作った農作物を売っている。

[竹内（栄）委員]

将来像の文言が、総花的で柔らかくて歌えるような感じがして「これをやる！」という意気込みが文言から感じられない。「梅香る緑園都市」は10年くらい前からいい続けてきている気がする。これがバックキャストिंगで生まれた言葉なのか。20年後の知多市を考えたときにこの言葉は出るのかと思うと、違和感がある。企業の10年計画はこういうものではなく、もっと具体的に方向性がうたわれていて、それに向かって一丸となっていく。市はこれでいいのかと思う。

[吉村会長]

企業が作る計画は、実施計画レベルになるのではないか。ここは、もう少し違う形だと思う。あえて言うと、読まない行政計画の最初のインパクトに対して、違うところからやってみようというものがある。みなさんが、ということも含めて「チャレンジ」。より具体的という考えもあるが、それでは今までと同じになってしまう。

緑園都市については賛否両論で、それぞれの受け止め方があるかと思う。改めて宣言するなら、その意味合いを書いた方がいいとは思っている。

将来像でむしろ音楽が流れてくるのは、いいイメージではないか。

[竹内（栄）委員]

これが最初になればいいと思う。最初だから違和感がある。最初にこれがきていると、読まないのではないかと思ってしまう。

[吉村会長]

それが作戦。わざとシンプルにさせて、だから読む、ということもある。

[富田委員]

私は柔らかく始まるのは良い。

[西尾委員]

シンプルすぎるので、梅が香るイメージをもっと入れた方がいいと思う。

[吉川委員]

梅子を入れるといい感じになるかもしれない。

[水内委員]

ここからレイアウトは変わると思う。気になったのは「梅香る」は令和にかかっているのか。

[吉村会長]

たまたまだと思われる。

【入江副会長のグループ発言骨子】

[入江副会長]

言い残しや新たな観点があれば、自由に発言をしていただきたい。

[松本委員]

76 ページの(1) 協働・連携の方針について、市民の連携、官民連携、自治体連携についてうたわれているが、いちばん重要なのは、庁内の連携だと思う。縦割りをやめ、横串をあえて入れてもらうということが大事。

[入江副会長]

これの実現の肝はまさにそこだと思う。重点戦略にたくさんの所管課が関わって横串で実現していくということだが、「横串を通すこと」に関する記述がないように思う。それぞれの戦略に、どの部や課が関わるのかが示されていない。

[松本委員]

「はじめに」は、計画の冒頭にあるべきだと思う。「はじめに」にて、今までとは違う総合計画であり、横串で連携し、市民のために計画を実現させるという意気込みを書いて欲しい。現在「はじめに」に書いてある内容は、「計画の概要と知多市の現状」くらいのものだと思う。

[入江副会長]

構成が従来型である。冒頭に審議会の思いなどを書いたほうが良い。

[河村委員]

本計画の新しさがわからない書きぶりになってしまっている。「あたらしく、知多らしく」をうたっているのであれば、どこが新しくどこが知多らしいのかが分かるような表現が必要。

人口減少や高齢化率といった、自覚できるものはさておいて、自覚できない目で見えない市民の思いを表現することも必要。

また、「理想の未来」を読んでも、イメージができない。バックキャスト的に、理想の未来のワクワク感や市民性、多様性がある、その実現のための具体的な戦略がこれだという構成になっていない。さらに、矢印のKPIをどうやって評価をするのが不明確。上向きで頑張るというのは分かるが、それだけではどう頑張ったら良いか意識しにくい。

重点戦略の内容を個別計画に落とししていくときに、従来型の部や課の戦略では難しいので、横串を通す仕組みづくりは重要だと思う。

[竹内（徳）委員]

KPIについて、誰が見ても良くしたいものばかりで、当たり前の内容すぎてそれ以上の意味を感じない。どれくらい高めたいのかが不明瞭だと、具体的な目標がないので意味があまりないのではないかな。

[市野委員]

KPIの他市の事例だと、東海市では住民が議論して作っており、議論した結果全て改善ではなく横ばいの指標もある。全ての指標を改善するならば、市民にとって大きな負担となると思う。何を優先的に向上させるのかについて、審議会でも議論があってもよかった。

[松本委員]

KPIについて、例えば、65 ページに書かれている社会動態数や子育て世帯の純移動数などは、現段階でマイナスの数値になっているので横ばいの指標でもよかったということか。

[市野委員]

そういうことである。

[入江副会長]

進捗管理を市民で行うので、矢印の場合わかりやすさがあるとは思いますが。数値だとわかりにくさがあることにも留意すべき。

[松本委員]

52 ページの交通について、ヨーロッパにおいて公共交通と自転車を積極的に活用している理由は気候変動対策のためである。計画の中で、SDGsを踏まえて気候変動について触れる必要があると思う。

また、記述するかどうかは議論の余地があるが、車に過度に依存した生活を改めることに対する市民の共通意識を持てるかどうか重要。

もう1つは高齢者の免許返納問題。車を運転しなくても安心して生活できるような環境作りを明記して欲しい。公共交通の利用というのは、日常的に運動するため健康につながると思う。生涯を通じた

健康づくりに関する観点を入れて欲しい。朝倉駅前の再開発では、朝倉駅へのアクセスも改善すると思う、賑わいの拠点づくりというのを入れていく必要がある。

また、従来型の総合計画にはよくある土地利用が書かれていない。

[入江副会長]

土地利用に関しては、分野別のところで必要ということか。

[市野委員]

知多市では、土地利用は都市計画マスタープランの中に含まれていると思う。

都市計画に関して、なぜこれまで知多市が緑園都市を重視するようにしたかということ、住宅地と工業用地を分けるためにしっかり緑園を設けたということ。そういった緑園都市であるべき所以を、今回の総合計画でも記述したほうが良い。

[入江副会長]

これまでの緑園都市の経緯を書き込むということか。

[松本委員]

64 ページ [政策 3 - 3] に、記述したほうが良い。

[榊原委員]

今回の総合計画は「チャレンジ」という言葉が多く登場するが、花や緑の安らぎをうたっているのに対して、チャレンジ過多なのは重いなと感じる。安らぎについて伝わる表現があると良い。

[松本委員]

「これまでも緑があって安らげているまちであった。これを守っていく」ということが書いてあれば良い。

[入江副会長]

将来像について、これが知多市の将来像であることを初めて知った。最終的にここを目指すということを書いた方が良い。また、この将来像と他の計画部分が整合していることを説明していても良い。

[生田委員]

この計画は、出来上がったらどのように市民に伝えるのか。

[入江副会長]

市役所においておだけというのが従来ではよくある形。

[生田委員]

一市民としては、今までの総合計画を見たことがなかった。頑張って作成した本計画を、知多市民に知ってもらえるのか。知られないともったいないと思う。

また、総合計画のタイトル「あたらしく、知多らしく。梅香るわたしたちの緑園都市」について、何度か意見を挙げているが何も変わらない。知人にタイトルについて聞いても、しっくりきていないようだった。

[入江副会長]

タイトルは、事務局はこのままいきたいということだった。また、概要版は通常作られるので、資料1よりはわかりやすいものが出来ると思う。

[河村委員]

市民のペルソナを作って、ストーリーを作るというのは行わないのか。当初、ちゃんとまとめられるのか不安だったが。

[松本委員]

ペルソナについて押し付けだと思われるという意見があったかもしれない。

[松本委員]

生田委員の発言は、タイトルに対してしっくりこないのか、タイトルに対しての中身についてしっくりこないのかどちらなのか。

[生田委員]

タイトルの「あたらしく、知多らしく。」と「梅香るわたしたちの緑園都市」とが整合していないように思う。漠然としっくり来ないと感じる。一般市民からすると、へーと思うだけだった。

[入江副会長]

その感覚は多くの方が持つものだと思う。どこがどう新しいのか、知多らしさとは何かを説明する必要がある。

[生田委員]

将来に関する計画になるので、現在の子どもたちが知っていた方が良いと思うが、その観点からしてもわかりにくいと感じる。高校生でもわからないと思う。行政の仕事だと思ってしまった。

[入江副会長]

今の話は、計画本体を変えた方が良いということなのか、それとも概要版で中高生あたりをターゲットにして表現を工夫したほうが良いということか。

[生田委員]

概要版を工夫したほうが良いと思う。また、それぞれの節について、わかりやすく解説したものが欲しい。

[峯神委員]

概要版は学校の授業中に使えるようなものだと良い。先生方が子どもたちにその思いを伝えるということ。先生と子どもが話し合う機会があれば、先生の方も意識が変わると思う。また、子どもを通じて、家庭にも総合計画の内容が伝わると思う。

[高山委員]

10年後地域を支える人材となっている、現在の10代の子たちが理解できるように心がけたい。

[松本委員]

これまで、総合計画は行政計画なので、広報することの意識が低かったが、最近になって、市民にきちんと伝えるということ意識し始めてきている。また、子どもたちに向けて説明するという観点がなかったと思う。子どもたちに向けた副読本を作成するのは良いと思う。これを学校教育に使うというのは非常に良いと思った。

[入江副会長]

実は、中学生でも読めるものを作るというのが、腹案としてあった。小学校高学年～中学生で読めるものがよいと思う。小学校低学年では理解できないし、高校生では将来の進路が決まって来る時期なので、そのくらいの年齢の子どもが読んで、地域への愛着を育むものであったり、職業について考える意識付けを行うものになれば良い。

【全体共有】

[吉村会長]

熱心なご議論を頂いておりますが、時間の関係もありますので、まだまだ言い足りない部分は、メールなどでお寄せ下さい。各テーブルで頂いたご意見を共有したいと思います。

まず、副会長からお願いいたします。

[入江副会長]

76 ページに市民協働に関する記載がありますが、重点戦略について横串を通すというのが重要なポイントだと思いますので、庁内連携について記載があっても良いという意見が出ました。それに伴って、各重点戦略に関連する所管課を書いておいたほうが良いという意見が出ました。

「あたらしく、知多らしく」について、伝え方の問題があります。人口減少が自覚症状としてあるなかで、見えないところとして知多市がこれからどうなっていくのかというワクワク感を記載されていると良いという意見がありました。

また、そもそもイメージとしてわかりにくいです。どういったところが新しく知多らしいのか。緑園都市についても、どういうスタンスなのかがこのままではわかりにくいため、中学生でも読めるような副読本を作って、授業で使えるなら使う、使うことができないなら家庭に配布するとよいという意見が出ました。生徒だけではなく、先生や保護者の理解も深まると思いますし、市民意識や地域愛の醸成にもつながります。ぜひ、審議会の意見として挙げてほしいという意見が出ています。

52 ページの公共交通ですが、ヨーロッパ等で公共交通が注目されている理由は、CO₂の削減が大きな理由ですので、気候変動のSDGsが入るべきだという意見が出ました。これに関する市民の取り組みとして、車に過度に依存しない社会に変えられるかどうか。健康づくりという観点からも関連が深いので、そういった施策を書くべきではないでしょうかという意見がありました。

土地利用について、これまで知多市が緑園都市をどう作ってきたのかをきちんと検証する必要があります。意識的に緑園を住宅などとは別に整備してきたことを踏まえつつ、これからの10年間どのように緑園都市を守っていくかを書き込んで欲しいという意見がありました。

KPIの評価指標が矢印だと視覚的にはわかりやすいですが、評価しにくいのではないかという意見がありました。上向きであることが望ましいのは分かりますが、どの程度なのか把握することが難しいという意見です。市民による進捗管理をする際に、市民がわかりやすいのはよいが、そうであるならばKPIの個別の中身について審議会で議論があっても良かったという意見がありました。

[吉村会長]

副読本は、ぜひやっていきたいです。市民のための計画であるということが大事なので、そこをきちんと伝えていきたいです。計画自体を審議会メンバーでやってきたことをきちんと書く必要があります。計画にはメンバー自身の思いは書けないかもしれませんが、委員としての思いを共有することで、ほかの人たちが見たときにこういう思いを持った委員が関わっていたのだということに気付ける可能性もあるかと思います。作った後のことをイメージして、どういうことを書くのか。わたしたち自身がこの後、どう関わり続け、見続け、応援し続ける、あるいは実施主体として自ら実行していくことにつながるのではないのでしょうか。

2番目は、政策パッケージをどうやって推進していくのかが欠けているという話がありました。分野別計画から個々の所管ごとにだけではなく、もう少し横断的にやることや複数の庁内連携を明記する。その中で、きちんと宣言する必要があり、明文化が必要であると議論がありました。最近の例で言いますと、学校と地域の連携をどうするかということについて、課題としてはわかっていますが、どのように進めたらいいのかわからないといったことがあります。方法についてわかれば、後押しになるのではないのでしょうか。もうひとつ議論にあがったのは、自治体がつながりを作るのはだれが担うのか。庁内連携、官民連携を促進するのはだれか。コーディネートするのはどこか。推進に向けた地域活動、市民活動、官民連携だけではなく、その背後にある応援する仕組みも書いておくべきという議論もありました。

魅力に関わることも、もう少し具体的なことが必要です。全体的な議論が計画作成の際に相当抽象化されてしまうのはやむを得ないのですが、知多市の魅力資源としての農、食の部分はもう少し具体的に言及できることもあると思います。新しい食文化を生み出そうとする人、企業を起こそうとしている人を応援していくことを含めて明示化して、これを知多の魅力として押していく、知多だからこそできる起業のあり方を明記していくこともできるのではないのでしょうか。

改めて、今日の議論を整理する中で共有しておいた方がいいと思うことをまとめとして言いたいと思います。全体に少し今までとは違うやり方でやってきたことをどうやって文章に残すのか、計画の中で表現できるのかできるだけ注意深く見ていくべきではないかと思います。やはり「従来型」を乗り越えないといけないと思っています。そうさせないところは構成だけでなく表現の仕方、どれだけ書き込めるか、わたしたちの思いが見えるかで違ってくるのではないのでしょうか。ここはみなさんの思いを踏まえて、残り少ない時間ではありますがやっていく必要があると思います。

SDGsについては、唐突な感じがあり、ここで打ち出すということが単に計画の中のアイコンということだけではなく、本気で取組むということを見せていく必要があるという認識はみなさんの中で共有できていると思います。

テーブルごとの議論にもありましたが、総合計画推進に向けてもう少し本気で取組むという訴えがきちんと伝わると同時に、私たちも実行していくことをしっかり確認できるように文章として残していかなくてはならないと思います。

新しい考え方として、公共計画とはどういう話なのか、バックキャスティングについても市民が聞いたときに、相当な「違い」がわかるような書き方が必要だと思います。

地域共生社会など文章を確認する部分は、会長、副会長のところで今日の議論を含めて今後の作業の中で補っていきます。図表も途中ですので、本日の議論を踏まえ事務局で作業してもらいながら、もう一歩進んだ内容をみなさんと共有し、最終的な確認をしていければと思っています。

「梅香る わたしたちの緑園都市」のフレーズと書き方は、永遠に議論があるかと思っています。でも、これはチャンス。いい意味で違和感を持ち続け、気になり続けます。今日だけではなく、これまでの経緯の上でこれからの緑園都市を見せていくことが大事で、また新しい世代にとっての緑園都市を考えることも大事になってくると思います。

人口減少社会に関しては、図表だけではなくもう一歩説明があるとより理解が進むでしょうし、そういう覚悟、人口減少を受け止めた上で賢く縮んでいく、ということでしょう。それは書かれていませんが、ある程度は書き込むことで伝わることもあります。今日の意見を踏まえて整理をしていけたらいいと思っています。大きな方向性は共有できていますが、「従来と同じ」からをいかに成しえるかが大事です。そこも最後のところで一生懸命できればと思っています。

事務局においては、各委員からのご意見を踏まえ、パブリックコメントに向けて、総合計画案を整理していただくようお願いします。また、今後の調整は会長、副会長が事務局とともに進めてまいります。

本日は、委員の皆さまのご協力をいただき、たいへん有意義な検討が行えましたことをお礼申し上げます。次回は、最後の審議会となり、答申書を市長にお渡しすることになりますので、よろしく願いいたします。

3 その他

[吉村会長]

次に、次第の「3 その他」について、事務局からお願いします。

[事務局]

活発な意見交換をありがとうございました。本日頂いたご意見を踏まえ、改めて事務局で計画案を整理させていただきます。

今後の策定スケジュールにつきましては、9月2日策定本部会議におきましてパブリックコメント案を確定し、9月13日から10月15日にかけてパブリックコメントの実施、その後、審議会からの答申をいただき、12月議会での審議、と進めていく予定ですので、ご承知おき下さい。

なお、本日頂いたご意見の他にもご意見などありましたら、ご遠慮なく、事務局までお寄せ下さい。日程の都合上、期間が短く申し訳ありませんが、8月28日水曜日までにメールなどをお願いいたします。

次回の審議会の開催につきましては、11月12日（火）午前10時から、会場は本日と同じ、協議会室の予定としております。よろしくをお願いいたします。

[吉村会長]

以上で、予定した全ての日程を終了しました。これにて、第7回知多市総合計画審議会を閉会します。大変お疲れ様でした。

以上